

第1回新賃金・夏季手当交渉開催

組合の趣旨説明を行う

国労東北自動車支部

発 責
北山修司
編 責
教 宣 部
NO,89
2016.4.6

国労加入
で職場を
変えよう

4月5日(火)バス東北本社において第1回「新賃金・夏季手当交渉を行い、組合として要求の根拠やバス労働者のおかれている状況などについて説明を行いました。会社は「厳しい状況であることは、理解していただきたい。」の一点張りですが、有額回答を強く求め終了しました。
第2回交渉は、13日(水)会社側主旨説明となっています。(以下、交渉内容要旨)

組合・一昨年6年ぶりにベースアップがあったが昨年は残念ならなかった。我々の要求1万5千円をバス東北に考えたとき、原資として1億円ちよつとぐらいいで収まるだろうと考えている。夏季手当についても3.5ヶ月プラス5万円は、バス社員の要員構成から考えると原資は1億円ちよつとぐらいいになるだろうと考えている。

この間、会社の内部留保はすでに60億円以上を超えているし、支払い能力に何ら問題はない。さらに今のバス労働者の実態として国交省が発表している離職率というのは1年で29%、4年も過ぎるとほぼ半分の48%まで上がっている。この背景として賃金が安いということが第1点にあるのではないかと考えている。今、バス東北で新卒者の募集を行っているが運転手が15万7000円、整備士については14万9700円となっている。バス運転手の特徴的な部分としてこれが35歳を過ぎると上りが悪くなって、45歳以降に

なると全産業労働者の平均より100万円下回ってくるし60歳を過ぎると年収はその半分にしかならない。宮城県で25年)からしてバス東北は低いと言わざるを得ない。また、運転手当135円の引き上げは出向社員との格差は正部分。一昨年、七北田、白沢について運転手当20円加算。宮城・福島に在籍する契約社員の基本日額に50円、60円加算し格差賃金が導入されたがこれをすべて650円引き上げていた。動力費は1億円以上よくなっている。

会社・決算がまとまるのはもうちよつと先になるが経営計画の収支見込みと合わせおかれている状況について話をしたい。第1、第3四半期とうして減益となっている。乗務してわかっていると思うが2月、3月は軒並みダウン。北東北、南東北、首都圏はだめで100%に達していない。良いのは古川だけ。動力費は今はいが中東情勢は不安定でこの先どうなるかわからない。それなりの準備は必要だ。厳しい状況を話さざるを得ない。

組合・営業費用に占める人件費の割合は変わっていない。平成18年にバス社員の運転手当を半額にした経緯がある。契約社員の特殊作業手当も下げた。会社として利益もあるし下げた手当を戻すようにしてもらいたい。

会社・収入の方は少し良いが純利益はダウンしている。

組合・平成8年から社員採用しているが16年までに社員になった方の基本給を寒冷地手当をなくす時に5000円上げていく。我々は払えないものを上げてくれと言っているわけではなく、払える余力があるわけだからお願いをしたい。人件費が上がっているならどの程度か示してもらいたい。次回の交渉では経営計画の説明もお願いしたい。